

ANNUAL REPORT

2023

認定特定非営利活動法人

ファミリーハウス®

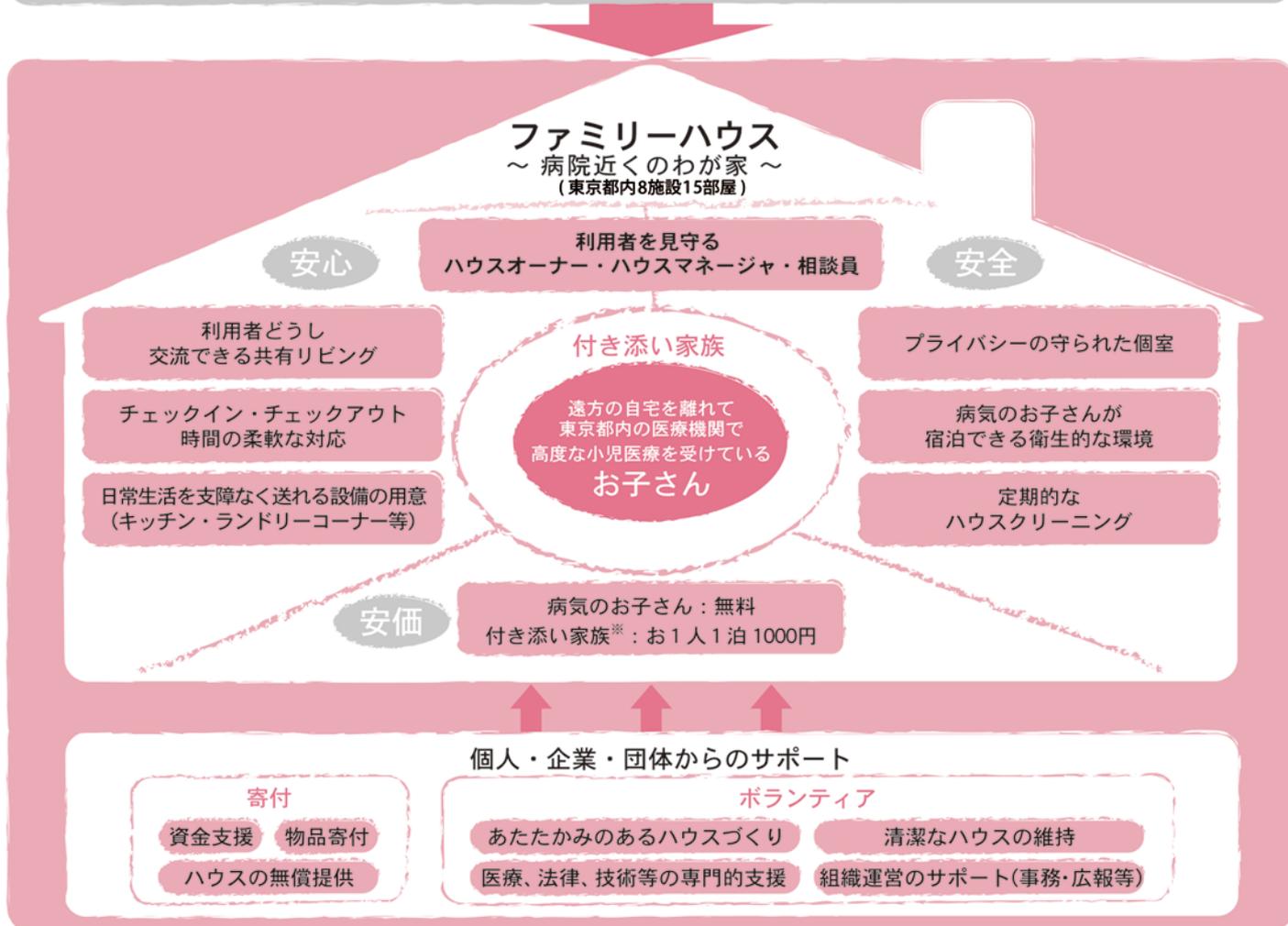
病気の子どもと家族のための滞在施設



© Yuriko Yamawaki 2006

認定NPO法人ファミリーハウスの取り組み

- 先端医療を必要とする子ども**
 - ・小児がんや慢性心疾患などの小児慢性特定疾患の病児10万人以上
 - ・東京都内には多くの高度専門病院
 - ・地元で先端医療が受けられない場合は上京
- 付き添い家族の重要性**
 - ・病気の子どもの治療効果の向上
 - ・病気の子どもの精神的な支え
 - ・治療方針の意思決定への参加
- 家族の負担**
 - ・基準看護の病院では、付き添い家族の宿泊不可
 - ・闘病や、地元と病院の二重生活などによる精神的負担
 - ・治療費、交通費、宿泊費などの経済的負担
 - ・付き添い生活による身体的負担



※未就学のきょうだいは、お一人様まで無料です。

認定NPO法人ファミリーハウスの成り立ち

- 1991年 国立がんセンター中央病院小児病棟「母の会」(現在「コスモス会」) から、長期闘病生活の中での滞在施設の要望が強くなる
- 1993年 遠方から治療にくる病気の子どもの対象とした、日本初の専用滞在施設を開設 (がんがるーの家)
- 1995年 設立当初より中心的に関わっていた国立がんセンター中央病院小児科医長(当時) 故 大平睦郎氏が代表理事に就任
- 1999年 特定非営利活動法人(NPO法人)格を取得
- 2010年 認定特定非営利活動法人として国税庁から認定
- 2014年 認定特定非営利活動法人として東京都から認定 (2021年1月25日再認定)

組織概要 2023年5月末現在

| | | | |
|---------|--------|---------------------------------|--------|
| 〔役員〕 | | | |
| 理事長 | 江口 八千代 | 元 独立行政法人国立病院機構 相模原病院 看護部長 | |
| 副理事長 | 細野 亜古 | 国立研究開発法人国立がん研究センター 東病院 小児腫瘍科 医長 | |
| | 牧原 晋 | 元日本電気株式会社 執行役員常務 | |
| 理事/事務局長 | 植田 洋子 | | |
| 理事 | 石田 也寸志 | 岩瀬 貴美子 | 植田 洋子 |
| | 加納 裕久 | 小山 健太 | 小澤 敦子 |
| | 芳賀 圭子 | 長谷川 幸恵 | 酒井 三貴子 |
| | 成瀬 実 | 豊岡 桃太 | 田中 初美 |
| | | | 久田 満 |
| | | | 柳町 玲 |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 〔顧問〕 | |
| 川瀬 量平 | 前ファミリーハウス副理事長 |
| 福川 辰郎 | 元三菱UFJ信託銀行横浜支店長 /元千代田化工建設常勤監査役 |

2022年度レポート 2022年4月1日～2023年3月31日

概観

●ハウス利用実績

施設数：8施設15部屋
利用人数：延べ 238家族
(延べ 4,936人)
利用日数：延べ 3,440日
本法人活動開始以来の
利用実績累計：延べ 19,687家族
延べ 179,927日

●利用受付・相談実績

利用受付・相談の電話総数：2,905件
利用者への面談件数：984件

●2022年度活動計算書

(単位:円)

| 科目 | 金額 |
|-------------|------------|
| 【経常収益の部】 | |
| 会費 | 395,000 |
| 受取寄付金 | 49,204,717 |
| ハウス運営事業収益 | 4,215,000 |
| ハウス運営受託事業収益 | 3,300,000 |
| 受取助成金 | 1,074,037 |
| その他収益 | 2,031,046 |
| 経常収益合計 | 60,219,800 |
| 【経常費用の部】 | |
| 運営相談事業費 | 35,341,614 |
| 運営受託事業費 | 3,462,489 |
| 広報活動費 | 3,925,607 |
| ネットワーク会議費 | 230,296 |
| 管理費 | 4,038,629 |
| 「理想の家」建設積立金 | 5,000,000 |
| 経常費用合計 | 51,998,635 |
| 経常増減額 | 8,221,165 |

活動報告

ハウス関連

🏠 「カピバラの家」(墨田区)オープン

墨田区(都立墨東病院すぐそば)に1家族用のハウスとして開設しました(一戸建て)。医療的ケアを必要とする重篤度の高い患者さんが、自宅に戻るための移行期間として利用し、訪問看護、リハビリ、訪問学級等、手厚い支援を受け、ハウスでの生活を送ることができています。



🏠 「理想の家プロジェクト」の推進

医療的ケアが必要な子どもも家族と一緒に安心して過ごせる新ハウスを築地市場跡地に開設できるように、定期的なプロジェクトミーティングや、東京都、厚生労働省、国立がん研究センター中央病院などの関係機関、専門家と情報交換・意見交換をしながら様々な活動に取り組んでいます。

🏠 「終末期の子どもたちを受け入れ可能にするファミリーハウス運営事業」

公益財団法人洲崎福祉財団の助成を得て、2020年より3年間にわたり、ファミリーハウススタッフのための「終末期の子ども受け入れのためのマニュアル」「安全衛生ガイドライン」「安全衛生マニュアル」を作成しました。今後はこれらを用いて内部研修を行う予定です。



終末期の子ども受け入れのためのマニュアル

～ファミリーハウスの運営にかかわる皆様へ～



2023年5月
認定特定非営利活動法人ファミリーハウス



ボランティア関連

☀️ ハウスを支えるボランティア活動

新型コロナウイルス感染症対策のために人数制限をしながらのボランティア活動となりましたが、ボランティアの皆さんの工夫により滞りなくハウスを運営することができました
(延べ活動回数268回、延べ活動人数675名)。



☀️ オンライン・ボランティア説明会の開催

ボランティア希望者の活動への理解を深めてマッチングを図るために、ボランティア説明会を27回開催。2022年度新規登録者数は24名、2022年3月現在の登録ボランティアは237名。

広報関連

📌 クラウドファンディング・プロジェクト

絵本『やさしさの木の下で』の寄贈と未来のファミリーハウス実現のための資金を募るクラウドファンディングを実施して、131名から合計1,435,500円のご寄付をいただきました。



📌 東京マラソン2023チャリティ

2023年3月

3月5日、ファミリーハウスを支援するチャリティランナー212名が東京マラソン2023に出走しました。3月2日～4日の東京マラソンEXPO 2023と大会当日のチャリティラウンジにブース出展して、チャリティランナーに直接お会いすることもできました。



📌 第23回JHHHネットワーク会議の開催

2023年2月

2月4日、当法人主催で「コロナ禍で変わる患者家族滞在施設の機能」をテーマにオンライン形式で開催しました。認定NPO法人パンダハウスを育てる会理事長/医療創生大学心理学部臨床心理学科教授 山本佳子氏、福岡ファミリーハウス代表 高原登代子氏、当法人スタッフ・社会福祉士 植田桃子による講演のあと、分科会では全国のハウス運営団体16団体52名の参加者が意見交換をしました。



☀️ 企業社員ボランティアとの協働

ハウスでの活動に加えて、オンラインによる活動紹介やプログラムを合計45回実施して、550名の企業社員がボランティア参加しました。コロナ禍で、ハウスでの活動が難しい企業の社員の方々にも活動を紹介し、協力いただく機会となりました。



📌 チャリティ・ジャズコンサート

@スウェーデン大使館 2022年12月

12月2日、NPO法人グローヴィル主催、コスモエネルギーホールディングス株式会社の協賛で、3年ぶりに観客を集めてのチャリティコンサートが開催されました。関係者を含め100名近くの聴衆がスウェーデン語の歌声とジャズ演奏を楽しみました。



📌 実習受入、学会発表

慶應義塾大学看護医療学部、東京慈恵医科大学大学院および医学部看護学科等の実習や見学を受け入れました。日本小児看護学会第32回学術集会、第22回中部トータルケア研究会、第64回日本小児がん看護学会学術集会教育講演等において発表しました。

📌 オンライン・ビデオ教材開発

病気の子どもと家族の生活ニーズやハウスの必要性の理解者を増やすことを目的に、積水ハウスマッチングプログラムの助成を受け、「難病の子どもと家族の生活ニーズを知るためのオンライン・ビデオ教材開発」に取り組みました。ビデオ教材はどなたでも無料でYouTubeでご覧いただけます。



事業の内容

ハウス運営事業（8施設 15部屋）2023年5月末現在



相談事業

子どもが病気になったことから、遠く自宅を離れ、わが子とともに闘病することとなった家族の方々が直面するさまざまな困難について、ともに問題の解決をはかるために、ご相談をお受け致します。

- 例えば以下のような点でお悩みの時
- ・滞在施設に関すること
 - ・長期入院、遠距離通院に伴うこと
 - ・看病に伴うこと
 - ・地元と病院の二重生活に伴うこと
 - ・その他

受付時間 月～金 10時～18時
受付電話番号 03-6206-8374
相談料 無料
相談員 相談には専門のスタッフがあたります。

認定NPO法人ファミリーハウス支援のお願い

1. 寄付によるご支援

・寄付金でのご支援

a. 下記の口座に郵便振替でお振り込みください。

郵便口座名義：「ファミリーハウス基金」
郵便振替口座 / 00180-1-654419

b. インターネット上からクレジットカードによる寄付もできます。詳しくはファミリーハウスのホームページをご覧ください。

(ファミリーハウスでは、寄付金を頂いた皆さまを「後援会員」とさせていただいております。)

・物品でのご支援

a. プリペイドカードの寄付
(図書、百貨店、クオなど各種カード)

b. 「ファミリーハウス」で使用される物品の寄付
(家電製品、衛生用品、家庭用品、食料品など。
原則として新品に限る)

2. ボランティアとしてのご支援

・あたたかみのあるハウスづくりへのサポート
・医療・法律・技術等の専門的サポート

・清潔なハウス維持へのサポート
・組織運営のサポート(事務・広報等)

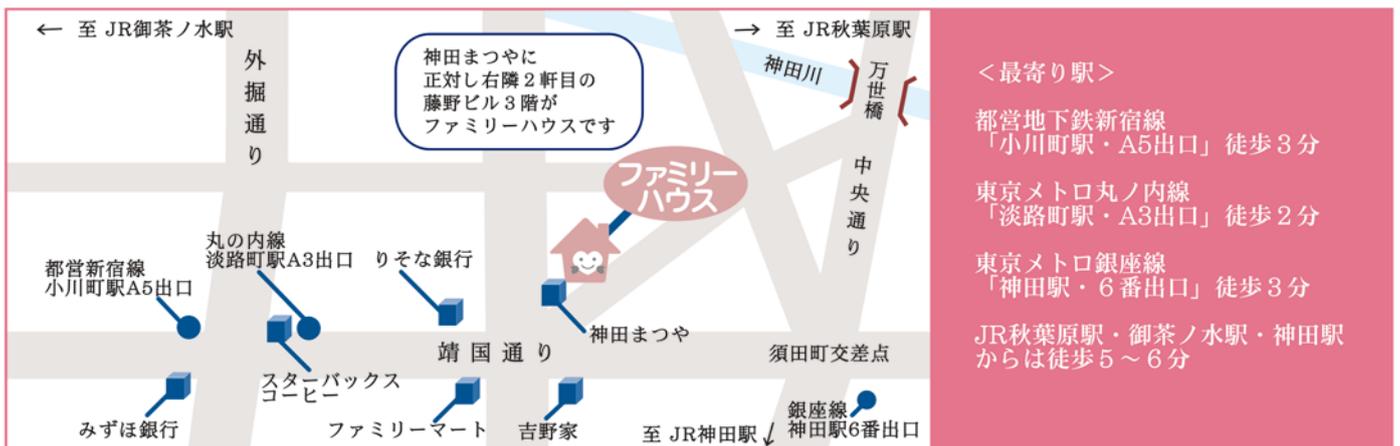
2022年度にご支援いただいた皆様

正会員数 95 寄付者数(後援会員数) 702

アステラス製薬株式会社、アストラゼネカ株式会社、足立医院、一般社団法人アルマ アルマ東京ティアハイム、医療法人一丸堂、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、乾汽船株式会社、岩波ホール、株式会社エアヘッドコンサルティング、エイブル保証株式会社、株式会社エイブル、ASP Japan 合同会社、ABCアドバイザーズ合同会社、エドワーズライフサイエンス財団、MS&ADゆにぞんスマイルクラブ、太田鉄筋有限会社、医療法人社団織井歯科医院、花王株式会社、特定非営利活動法人キープ・ママ・スマイリング、魚らん銀座商店会協同組合、源良院、コヴィディエンジャパン株式会社、ゴールドマン・サックス証券株式会社、国際基督教大学教会ハンドベルクワイア ジョイフルリンガーズ、コスモエネルギーホールディングス株式会社、柳原記念病院医療連携室、佐野味噌醤油株式会社、株式会社サンクリエイト、株式会社サンリオ、三和グループ社会貢献倶楽部、公益財団法人JKA、株式会社ジェーシービー、公益財団法人社会貢献支援財団、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループJAPAN COMMUNITY IMPACT、隨應寺、夙川司法書士事務所、公益財団法人洲崎福祉財団、住友生命保険相互会社、住友生命保険相互会社大阪広報センター、聖学院中学校高等学校PTA宗教委員会、宗教法人聖心会、聖心女子学院 中・高等科 泉の会、聖心女子大学同窓会宮代会、公益財団法人生命保険文化センター、積水ハウス株式会社、積水ハウスマッチングプログラムの会、積水ハウスリフォーム株式会社、株式会社セリア、センコー株式会社、宗福寺、第一三共株式会社、株式会社TideSh、大鵬薬品工業株式会社、株式会社大和証券グループ本社、武田薬品工業株式会社、中国農業銀行東京支店、社会福祉法人千代田区社会福祉協議会、司機工株式会社、株式会社DEERS FOOTBALL CLUB 胎内DEERS、一般社団法人東京アムカンクラブコネクションズ、東京建物株式会社、トーア再保険株式会社、ドキュサイン・ジャパン株式会社、豊岡桃太税理士・FP・行政書士事務所、株式会社虎屋、株式会社トワ・スール、一般財団法人日本メイスン財団、パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社、株式会社ピースワン、光と風とエネルギーを安原智子基金、ヒビノ株式会社、BIPROGY株式会社、BIPROGYグループ社会貢献クラブ「ユニハート」、株式会社福祉医療共済会、フコク生命保険相互会社東京支社外野クラブ、ブルームバーグ・エル・ビー、PAPER HUGS、坊主BarWatanuki、ボールヘイスティングス法律事務所・外国法共同事業、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、株式会社松勘、マンダリン オリエンタル東京、みずほ証券株式会社、合同会社みつばち社、三菱地所ハウスネット株式会社、明治安田生命保険相互会社、明治安田生命保険相互会社企画部、メータージャパン株式会社、公益財団法人森村豊明会、モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社、ユービーエス・ジャパン株式会社、The UPS Foundation、リコーリース株式会社、立教女学院 藤の会、レンドリース・ジャパン株式会社

※ 「ハウス運営・相談事業費」の一部(難病の子どもと家族の生活ニーズを知るためのオンライン・ビデオ教材開発)は、積水ハウスマッチングプログラムによる助成を受けて実施しました。
※ 「ハウス運営・相談事業費」の一部は、エドワーズライフサイエンス基金の助成を受けて運営しました。
※ 「ハウス運営・相談事業費」の一部は、公益財団法人洲崎福祉財団の助成を受けて運営しました。
※ 「ハウス運営・相談事業費」の一部は、一般財団法人日本メイスン財団の助成を受けて運営しました。
※ 「ハウス運営・相談事業費」の一部は、公益財団法人森村豊明会の助成を受けて運営しました。

このほか、紙面の都合上記載できませんが、ご支援いただいた個人、および企業、団体の皆様ご協力ありがとうございました。



認定特定非営利活動法人ファミリーハウス



ゆりこ

SNSのフォローもお願いします！

公式サイト



公式Twitter



公式YouTube



© Yuriko Yamawaki 2006